

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 8 月 24 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270401187		
法人名	有限会社 ポラリス		
事業所名	グループホーム イーハトーブ		
所在地	長崎県諫早市有喜町 151-10		
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 24 日	評価結果市町受理日	平成 25 年 11 月 28 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 25 年 10 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1 階が有料老人ホーム、2 階がグループホームとなっており、季節の行事等合同で行っており、互いに交流を深めています。また、同法人の(小川町)行事や慰問の際は、利用者様の希望を募り、ドライブも兼ね参加しています。地域の商店も利用しながら、少しずつ顔馴染みの関係もできてきています。また、運営懇談会も回数を重ねるごと、参加して頂いている地域の方にはグループホームの理解も深まってきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

2 階の窓からは近くの海が望め、潮の香りが漂ってきそうな程、有喜の町に定着したグループホームである。散歩での挨拶や地元食材の調達、幼稚園児や有喜中のコーラス部慰問など、地域との交流にも力を入れている。管理者は、今年度、法人(小川町)より着任して間もない為、職員相互の理解に努めている中で、入居者には依然と変わりなく生活して頂ける様、各々が意見を出し合い改善に向けて試行錯誤を重ね、理念である『理想郷』にさらに、近付けるべく、よりよいホームとなるよう奮闘されている。職員同士、仲がよいことも自慢の一つで、入居者がゆったりした時間を過ごせる環境の提供に繋がっている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目が届くように理念を掲げ、常に意識しながら業務に取り組んでいる。	法人理念「ぬくもりやさ、一人一人を大切に」の理念が壁に掲げられ、通りすがり何回も目視し心に刻まれ、入居者各々の残存能力を引き出しながら、一緒に生活をさせて頂いているという心構えが伺える。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺の商店へ買い物へ行ったり、花火を見物したり、地域の方々との交流図っている。	散歩途中の買い物や地元食材の調達などを通じ、繋がりは増えつつある。敬老会には有喜中コーラス部の慰問があり、年末には、有喜保育園児によるクリスマス会が予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して頂いている、自治会長や民生委員の方を通し、地域の方々にも認知症に対して少しずつではあるが理解して頂いている。しかし、地域貢献には至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、ホームにて会議を行い、当ホームでの事例を基に、報告・意見交換を行い、今後の参考に行っている。	二カ月毎の会議ではホームでの事例を基に活発な意見交換がなされている。自治会長は取り組みに意欲的で経験豊富な意見を頂戴し、参考にしてサービス向上に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず出席して頂き、事業所の報告も兼ね意見も頂いている。また、法令遵守、ケアプランに関して等疑問点があると、その都度聞いている。	運営推進会議に毎回出席の際、貴重な意見を頂きケアサービス取り組みの参考に行っている。疑問点はその都度窓口に来訪し、直接、指導を頂き、解決に繋げることができている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入口に身体拘束排除宣言を掲げ、拘束しないケアを目指している。	玄関は無施錠で壁に身体拘束排除宣言を掲げ、月一回の会議には全員参加必須で、言葉使いや態度が拘束に当たらないかをお互いが検討し、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から虐待防止の意識を持ち、利用者様の状態観察を行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会がある場合は、参加しており、活用できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際、利用者や家族に対して書類を提示しながら、分かりやすい言葉で説明している。不安点や疑問がある場合は、理解・納得して貰えるよう、補足説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族が意見・要望が出来るよう、意見箱を設置し、面会時には家族から要望等ないか尋ねたりもしている。また、事業所独自のアンケート用紙現在作成中。	意見箱が設置され面会の都度、家族には要望等尋ねている。今回、管理者は初めて事業所独自のアンケート用紙を作成し本人家族に実施している。入居者が日中、居室でずっと寝てしまわぬよう居間のソファで過ごす事を希望され、家族の要望が運営に反映された。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内での全職員が参加する会議、ホーム内での会議(8月～)を月1回あり、利用者の変化等を含め、職員の意見を求め、業務内容に反映させている。	法人の幹部会議が週一回開かれ、代表者と実のある意見交換ができる。今回希望により、介護主任を配置した経緯がある。また、管理者と職員の月一回の会議では活発な意見交換で問題解決に繋げている。研修会受講に関して協力的で良好な関係が築けている。	

12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がスキルアップできるよう、話し合いの場を設けたり、給与水準を上げるための業務拡大等、職場環境条件の設備に努めている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われている内部・外部の研修の参加を促し、研修報告を作成し、全職員へ報告する伝達研修を行う事で、内容の理会を深めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に行われている、市のグループホーム連絡協議会の研修に参加し、情報交換等を行い、毎年行われるボーリング大会にも参加する事で、スポーツの交流も行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時から介護支援専門員が、アセスメント及び聞き取りを実施している。また、職員が得た情報を意見交換し、情報を共有する事で信頼関係を築くよう努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時から介護支援専門員や担当の職員が、十分な聞き取りを行い、家族とのコミュニケーションをとり、関係作りに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで得た情報を基に、安心して生活して頂ける環境作りを行い、今後の可能性も予測しながら迅速な対応に努めている。		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす日常の中で、利用者様が素直に感情表現をし、寄り添う事に努めているが、介護主体の場面が多く見られるのが現状である。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態を知って貰う為、毎月ホーム便りや手紙を送り、病院受診の際は電話等で連絡・報告を行っている。また、イベント参加の呼びかけも行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は定めておらず、何時でも会いに来て頂ける雰囲気環境作りに努めている。また、以前からのかかりつけ医院への受診を続けており、待合室での馴染みの方との触れ合いを大切にしている。	面会は時間を定めておらず訪問可能で、家族は食事を一緒に取ることも可能である。入居者は病院受診の際に待合室で友人との触れ合いを楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の生活スタイルを尊重しているが、場合によっては、性格や状態を十分に考えた上で職員が間に入り、利用者様同士が交流できる雰囲気や、場を作るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了された方や、ご家族の方へのフォローや相談支援の問い合わせがない為出来ていないが、今後問い合わせがあれば支援協力していきたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何気ない日常生活の中で、希望や意向を聞いたり、申し送り等で職員が情報収集に努めている。本人の為に可能な限り迅速に検討し対応しているが、何もかも出来ているとは言えない。	日常生活の中で発する何気ない入居者の言葉をキャッチし、態度で気持ちを察し、寄り添う対応に努めている。帰宅願望があれば家族に協力を求めることもある。	

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の会話から聞き取り、以前サービスを利用されていた施設の関係者、ご家族から不明な点等聞き取りながら、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の行動パターンを理解し、毎日の健康チェック・入浴の際の身体チェックを行い、可動域、力の強さ、記憶力等レクリエーションを通して現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の情報収集を行い、ご本人・ご家族の意向を反映しながら、職員からも情報収集し、計画作成している。	入居者の状況、情態変化の把握は担当制とし、管理者は職員、家族からの意見を反映させた介護計画を作成し本人に即したケアに努めている。管理者は、職員が記録に費やされる時間の負担を軽減するため、従来の方法より、効率的に的を得た記録方法を模索中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録を書き、大切な情報は申し送りに「赤」で記入する等、職員全員が情報を共有、実践出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生み出されるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方の方もおられる為、医療機関への入退院時の対応、必要に応じサービスを越えた支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護制度の活用、他の制度が必要な方もおられ、地域資源の活用に努めている。必要に応じ申請等も行っている。ご家族の事情により、通帳を預かっている方は、利用様の為に使える金銭の確保も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意向を尊重しており、定期受診も行っている。常に受診は職員が同行しており、ホームで急変時は主治医へ連絡し、指示を仰いでいる。	協力医の定期往診はあるが、本人家族の希望があれば病院は選定出来、紹介状も協力医に依頼可能である。歯科はニカ月毎に口腔ケア訪問があり六カ月毎に歯科検診がある。	

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護職員は配置していないが、常に利用者様の健康状態には気を配り、変化があれば受診を急ぐよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行くよう努めており、その際担当看護師や、相談員の方と情報交換を行っている。また、必要に応じ、電話連絡等を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様やご家族の意向を踏まえ、事業所が対応できる最大のケアについての説明は行っているが、地域関係者とチームで支援に取り組んではない。	管理者着任以降、看とりの経緯はない。入居時に家族への説明はあるが、終末期に向けた家族の意向把握に努め、グループホームとしての指針を明確にし、話し合いを持ち、今後は議事録に日付、場所、目的、本人及び家族の名前を残す事の必要性を考慮されると更に良いと思われる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は目に付く所に掲げてある。訓練は定期的には行っていないが、内部・外部研修への参加はしている。実践力に関しても個人差がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時想定避難訓練は年2回行っているが、地震等の災害時の訓練は行っていないのが現状である。	消防署立会いの下、一回自主訓練一回、計二回の昼夜想定入居者参加の火災訓練がある。近隣に消防署分団があるのは心強いが二階からの避難経路が限定される為、夜間勤務の職員も不安を消し去ることができない。	二階の他方向からの避難経路の確保が望まれる。(例えば避難梯子等) 自然災害を想定した訓練も同時に考慮し、入居者の安全に繋がる対策に期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の状態に合わせ、訴えに傾聴し、一人ひとりに合った言葉かけや、対応を心がけている。	生活歴を職員各々が把握し、誘導の仕方、言葉かけなど工夫を凝らして入居者が望む対応をしている。少しの気づきでも職員同士声を掛け合い、改善に繋げている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の要望が表現しやすい関係を作り、話しやすい雰囲気作りをし、自己決定を促すような声掛けを心がけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	さまざまな日常生活を利用者様のペースに合わせている。また、利用者様が今何をしたいか、希望に沿った支援を行えるよう心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際、ご本人に服を選んで貰うよう心かけ、年に数回訪問美容をお願いし、カットやパーマをお願いしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者様が一緒にテーブルにつき、会話をしながら楽しく食事をしよう心かけ、又簡単な食材の皮むき等手伝って頂いている。	法人の管理栄養士による献立表に基づき調理されるがホーム独自で地元食材を使用した献立になることがある。美味しい食事が自慢の一つで楽しく適量の食事を取ることが健康維持に繋がっている。食事に時間がかかる入居者には職員も合わせて取るなど一人一人を大切に思い支援されていることが見て取れる。また、持てる能力を生かし、皮むきなど調理参加もある。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じ、食器を軽いのにしたり、食事形態を刻み等で提供している。	

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせ、毎食後の口腔ケアを促し、自分で口腔ケアが難しい方も出来るだけ本人様にして頂き、仕上げを職員がするように心かけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の状態に合わせ、オムツやリハビリパンツ使用している。日中はできるだけ失敗なく、トイレでの排泄をして頂くために、声掛け誘導を行っている。	日中はできるだけ声をかけ誘導支援をしている。職員は入居者に合わせて言葉を選びながらの支援に努めている。排尿チェックシートは人目につかない場所に保管されることが望まれる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックの確認を行うとともに、夜勤者より何日排便無しの申し送りにより、下剤調整行なっている。また、出来るだけ自然排便できるように、朝食時に牛乳や、水分補給を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様に入浴の声掛けを行い、本人様の希望に沿った入浴ができるよう心かけており、入浴を拒否された時は清拭や足浴を進めて行っている。	入浴は掃除が行き届いた明るい風呂場で週三回、順番は特に問題なく、希望により入浴剤も使用しての支援に努めている。皮膚疾患もその際、発見し早期対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不規則な生活を避け、リズムのある生活習慣を送っている。睡眠が不足している場合は利用者様の希望も兼ね、自室で休んで頂く等、適度な休息時間をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり1日分の薬を夜勤者が準備し、職員が手渡し与薬をしている。症状の変化があった場合は主治医に連絡し、指示を仰いでいる。また、服薬説明書に職員必ず目を通すよう努めている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんで頂いたり、食器拭きを手伝って頂いたり、生活の中での役割を持って頂けるよう支援行っている。誕生月の方がいる月には、誕生会を行ったりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	天気の良い日は散歩へ行き、近所の方と挨拶程度ではあるが交わしている。同法人内で慰問・行事がある時は希望を聞き参加している。	希望により、近隣の商店へ散歩を兼ねた買い物へ出掛け、近所の人達との交流もある。法人内のフルートやギター演奏など参加し、楽しいひと時を過ごしている。年四回の行事計画があり、十一月はお弁当持参で紅葉見物を予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所で一元化している。外出時には利用者様の希望などに応じ、財布を持って買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の意向を尊重し、電話の希望がある時は、職員が連絡を入れ自ら電話で話して頂けるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はTV、ソファ、テーブル、畳コーナーを設け、利用者様と職員が関わりを持てるよう配置がされている。利用者様の作品を飾ったりして、落ち着いた雰囲気に整えられている。	天井が高く開放感があり、木のぬくもりは入居者にとって落ち着ける空間になっている。ソファでテレビを見たり、対面キッチンで調理する職員の顔を真近に見れて、安心感を得られている。今夏は暑さが厳しく、エアコンを大型に新調し快適に過ごして頂ける様工夫をした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席も決まっており、そこがご自分の座る場所だと認識しておられる。ご自分の席でTV鑑賞されたり、作業をされたり、畳コーナーで洗濯物をたたんだり、思い思いの場所で過ごされている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の生活の中で何が必要か相談し、思い出の品やご家族の写真を飾ったり、TVを置いたり、ベッドの位置・向きは工夫し、居心地良く生活できるよう配慮している。	全室フローリングで壁には家族写真が飾られている。備え付けのベッドやダンス以外自由に持ち込み可能になっているが入居者の希望で持ち込みなしで明るく、広々とした居心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室等バリアフリーの作りになっており、車椅子でも自力操作可能な方のご自分で رفتりしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない